

2023年5月12日

各位

株式会社 りそなホールディングス

**投融資ポートフォリオの温室効果ガス排出量ネットゼロ宣言および2030年度中間目標の公表について**

りそなホールディングス(社長 南 昌宏)は本日、投融資ポートフォリオの温室効果ガス排出量を2050年までに実質ゼロを目指すことを宣言し、その達成に向け電力セクターにおける Financed Emissions<sup>※1</sup>の中間目標を設定・公表します。

りそなグループは「金融+で、未来をプラスに。」をパーパスに定め、気候変動問題の解決に向けた取り組みを進めています。パリ協定<sup>※2</sup>で定める気候変動の脅威への対応強化にも賛同しており、この一環として、投融資を通じた気候変動問題の解決と地域社会のカーボンニュートラル実現に貢献し、企業価値の向上を図ります。

**投融資ポートフォリオの温室効果ガス排出量ネットゼロ宣言**

当社は、2050年までに  
投融資ポートフォリオの温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指します。

**電力セクター中間目標**

炭素強度<sup>※3</sup>を足元の139gCO<sub>2</sub>e/kWhから、  
2030年度に『100~130 gCO<sub>2</sub>e/kWh』へ削減する目標を設定します

今後、電力セクターを含むエネルギーセクター<sup>※4</sup>の Financed Emissions について、継続的に実績値を公表し、エネルギー以外のセクターにおいても Financed Emissions の把握、中間目標の設定を進めます。

※1：投融資ポートフォリオ温室効果ガス排出量

※2：「世界全体の平均気温の上昇を工業化以前よりも摂氏二度高い水準を十分に下回るものに抑えること並びに世界全体の平均気温の上昇を工業化以前よりも摂氏一・五度高い水準までのものに制限するための努力を継続すること」、「気候変動の悪影響に適応する能力を高めること」、「資金の流れを温室効果ガスの低排出型の、かつ、気候に対して強靱な発展に向けた方針に適合させること」等

※3：ポートフォリオ炭素強度(weighted average carbon intensity)

※4：「石油・ガス」および「石炭」セクターについても継続的に実績値を開示予定

以上

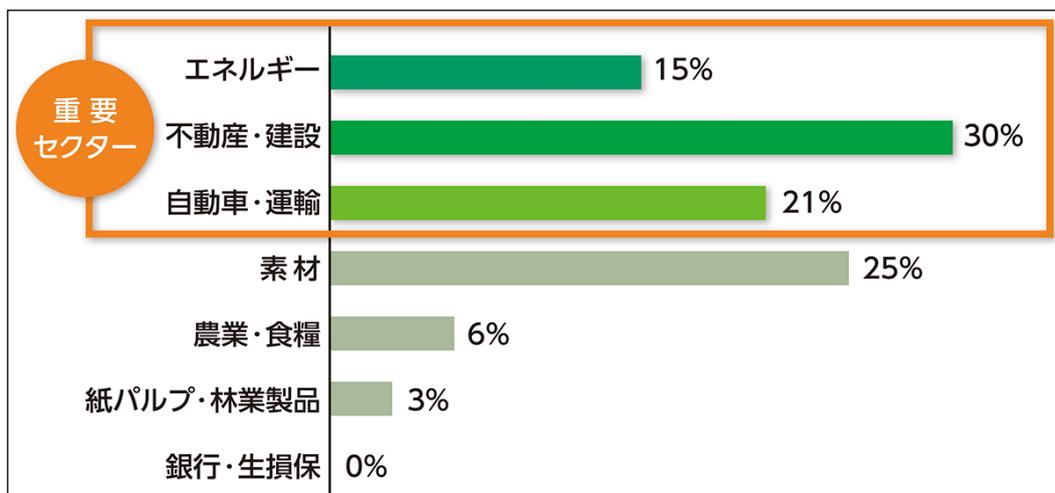
## 別紙

### 1. これまでの取り組み

TCFD 炭素関連セクター<sup>※5</sup>における気候変動の潜在的な影響度、ポートフォリオの大きさ、簡易算定済の Financed Emissions のセクター別分析等を踏まえ、「不動産・建設」「自動車・運輸」「エネルギー」セクターを「重要セクター」に選定し、リスクの定量分析等の深掘りを実施。

※5:当社業種区分で「エネルギー」「不動産・建設」「自動車・運輸」「素材」「農業・食糧」「紙パルプ・林業製品」「銀行・生損保」

#### 【Financed Emissions のセクター別内訳】



### 2. 今回の取り組み(Financed Emissions の計測)

「重要セクター」のうち、具体的な計測方法やデータの整備が進んでいる「エネルギー」セクターから優先的に Financed Emissions の把握と分析を実施。セクターの内訳を「電力」「石油・ガス」「石炭」に分け、PCAF<sup>※6</sup>の手法を参照して計測。結果は以下のとおり。

※6:金融向け炭素会計のパートナーシップ(Partnership for Carbon Accounting Financials)

#### 【エネルギーセクター(電力、石油・ガス、石炭)の Financed Emissions】

	算出対象 排出量スコープ	指標	実績 2022年3月末	投融資額	カバー率 <sup>※7</sup>	データ品質 スコア <sup>※8</sup>
電力	発電事業 Scope1	物理的 炭素強度	139 gCO <sub>2</sub> e/kWh	2,760億円	85%	2.1
石油・ガス	採掘事業 Scope1~3	絶対量	0.17 MtCO <sub>2</sub> e	73億円	100%	3.0
石炭	採掘事業 Scope1~3	絶対量	—	(対象なし)	—	—

※7:セクター別、貸出金ベース

※8:PCAF が定めるデータ品質スコア

### 【ポートフォリオ温室効果ガス排出量の計算式】

電力セクター	$\sum \left( \text{投融資先の炭素強度 (gCO}_2\text{e/kWh)} \times \frac{\text{投融資先への当社投融資額}}{\text{集計対象先全体への当社投融資額合計}} \right)$
石油・ガスセクター	$\sum \left( \text{投融資先の排出量 (MtCO}_2\text{e)} \times \frac{\text{投融資先への当社投融資額}}{\text{投融資先の借入・資本合計}} \right)$

### 3. 中間目標の設定(電力セクター)

上記結果を踏まえ、「電力」セクターを対象に中間目標を設定(「石油・ガス」「石炭」セクターは対象が僅少なため現時点では設定せず。ただし今後も計測を続け結果の開示を継続予定)。

#### 【電力セクター中間目標】

目標設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>石炭火力発電事業にかかるプロジェクトファイナンスの新規実行を原則停止したこと、国内の再生可能エネルギー向け貸出に積極的に取り組んできたこと等により、足元の炭素強度「139gCO<sub>2</sub>e/kWh」は、2030年時点の1.5°Cシナリオ(NZE2050)を下回る水準<sup>※9</sup></li> <li>一方、電力はあらゆる産業・生活の基盤であり、電力セクターのさらなる脱炭素化はリテールのお客さまの脱炭素化にも不可欠</li> <li>国全体の脱炭素化に不可欠なさらなる再エネの普及、トランジションや技術革新に取り組む発電事業者を支援し、グローバルな目標である1.5°C目標を十分下回る水準を目指していく</li> </ul>
中間目標	・2030年度のポートフォリオ炭素強度 『100~130gCO <sub>2</sub> e/kWh』

※9:NZE2050(WE02022)の2030年の炭素強度「165 CO<sub>2</sub>e/kWh」との比較

### 4. 今後の取り組み

電力セクター中間目標達成に向け、お客さまのトランジションに寄与する再生可能エネルギー関連与信に積極的に取り組み、投融資先との対話・取組フォローを進めます。

「電力」「石油・ガス」「石炭」の各セクターについて、毎年Financed Emissionsの状況を開示し、エネルギー以外の重要セクターについてもFinanced Emissionsの把握と中間目標の設定を検討します。

りそなグループでは、ポートフォリオ全体(リテール向け与信を含む)でFinanced Emissions把握と削減の実施が必要と認識しており、引き続きお客さまとの対話とソリューション強化に注力し、中堅・中小企業のカーボンニュートラルに向けた取り組みを伴走型で支援します。